兄妹始祖神話再考

～生まれ出ずるものを中心として～

曽我部一行

目　次

問題提起
1、兄妹婚への視線
2、話型の検討
3、南西諸島の事例
4、台湾の事例
5、中国の事例
6、東南アジアの事例
7、ヒョウタンと肉塊
結論

問題提起

アジア圏に広く伝わる兄妹始祖神話は、日本でも様々な研究者によって、日本神話との繋がりなどの視点からこれまで研究されてきた。兄妹始祖神話とは主に洪水などの災害を兄妹のみが生き延びて、様々な民族や人類の始祖、南西諸島の場合は島の始祖となったなどと語る話である。人類を滅亡させる災害としては洪水が多いため、洪水神話として捉えられることも少なくない。洪水のタイプなどの他に兄妹始祖神話で注目されたモチーフの一つは、生ま

れる子どもが不具というものである。従来、不具者が生まれるのは兄妹婚がインセスト・タブーを侵すものであり、近親婚が遺伝的な問題を引き起こす可能性が高いためだと考える傾向にあった。

しかし、伝承を細かく見てみると、生まれてくる子どもは仮に何らかの不具があるとしても、一般的に不具者と呼ばれる障害者のような性格とは異なるように思える。そもそも、通婚圏の狭かった古代において近親婚が行われていた可能性は高い。古代の人々は、日常に近い出来事から異常が起こるという考えを持ち得たのだろうか。もちろん、生物学等によって近親婚が遺伝的な問題を発現し易くする事は明らかにされている。けれども、たとえ近親婚を行わなくとも何らかの障害をもった子供は生まれるわけであり、その区別は古代人に可能だったのだろうか。現在の我々からすれば至極当然の事実である、近親婚が遺伝的疾患をもたらしやすくするという認識が、そのまま兄妹始祖神話を語っていた人々の認識と一致するとは限らない。

また、インセスト・タブーを犯した結果、つまり禁忌とされている行為をした結果、不具者が生まれたとも受け取れるだろう。だが、「異常な」という点では獣などと婚する場合も同じであり、異類婚姻譚では超能力を持った人物は生まれても不具者は生まれない。人と動物の婚姻によって自らの部族の始祖が生まれたという話は幾つもあるのは周知のところである。

現在の固定観念を取り払わなければ過去の人々の意識は見えて来ない。そして、まったく変わらない思想などあるはずもなく、伝承もまた伝えられるたびに変化していく。長い時間、広い地域に伝播したものならなおさら、それぞれの時代、それぞれの土地の人々の意識を反映して伝承は改変される。それと同時に、語り手や聞き手の解釈も変わってくる。兄妹婚によって不具者が生まれるという思想は、伝承の過程で段々と付け加えられていったものではないだろうか。

かつて、マリノウスキーが調査したニューギニアにあるトロブリアンド島の住民には人体に関する知識が著しく欠けており、性交だけでは子供ができないと思っていた。(1) 彼らは「霊が夜分に幼児を運んで来て、女の頭にのせ、それが血をつくる」ことにより妊娠すると考えていた。(2) すなわち、

父と子は関係上の親子であっても、出産は女性のみで行われるもので、父子の血の繋がりは考えていなかったのである。[3] それにもかかわらず、彼らにはインセスト・タブーの厳しい掟があり、特に兄と妹の相姦には極めて厳しいとある。[4] この場合は「未開人」だが、古代の人々にとっても子どもが生まれる原因は常識でなかった可能性は十分ある。

今回のテーマを扱うにあたり、既成概念にとらわれることなく、南西諸島から東南アジアに渡る広範囲の事例を出来る限り並べ、今まであまりなされていなかったマクロ的な比較を行い、兄妹始祖神話をもう一度検討する。それによって、元来言われてきた「兄妹の子が不具」や「不具は失敗の結果」という考え、及び一モチーフによる他地域同士の短絡的な比較に疑問を投げかけ、その可否を問う。なお、論文中に不具者という表現が使われるが、差別の意識は全く無い事を断っておく。

1、兄妹婚への視線

イザナギ・イザナミの神話が洪水型の兄妹始祖神話に含まれることは、古くは岡正雄が「洪水神話の破片」と指摘したことから始まる。[5] また、小島瓔礼も兄妹相姦を伴う始祖神話が琉球列島、台湾、中国、東南アジアに生みそこないのモチーフで共通している類似の神話があることから、「日本の創世神話が、かなりまとまった神話形式として日本列島に招来されたことが考えられる」と述べる。[6]

そして、松前健は子生みの失敗を共通点とし、東アジアの兄妹始祖神話がイザナギ・イザナミ及び伏羲・女媧にも当てはまるとしている。[7] 更には、手足の無い子を生むことに対して、「ヒルコの話を思い出させるものがある」と述べる。[8] 続いて、伊藤清司も中国をはじめとして東南アジアに「手足の無い不具児、肉塊を生む、つまり生み損じという要素が圧倒的に多くを数えるという事実」により、日本の国生み神話との対応を語る。[9] 加えて、「沖縄の兄妹婚説話について」では洪水型近親相姦神話の構造として「敢えて非人間的な同胞相姦の禁制を犯すことによる最初の非人間的異常児の出産」が、

その一部を構成していると論じている。[10] 失敗という見方では、西郷信綱もそうである。西郷はヒルコの出産を近親相姦の結果と結びつけることに疑問は持っていながらも、「蛭子云々の話は、まず失敗し、次に首尾よく成功するという、よくある説話形式の一つなのではないか」とまとめている。[11] 同じく大林太良もボルネオ、台湾、中国のロロ族に伝わる「二回ないし三回つづけて動物が生まれ、三度目の正直で人間が生まれている」神話を根拠とし、「日本神話で、ヒルコばかりでなく、アワシマもイザナギ・イザナミの子の数に入らずとあるのも、三度目の正直型の一例かもしれない」とか、『古事記』における水蛭子という名や形状の記述、更には兄妹婚により魚類が生まれる例があることから、ヒルコは水性生物ではないかと推測する。[12] ところが、最も兄妹始祖神話が多く見られる中国では兄妹婚によって魚類が生まれてくる例は殆ど見られず、他地域においても水性生物とはいえない動物も生まれていることから、この可能性をどの程度認めるかは更なる検討が必要と思われる。

また、福島秋穂はこれらの神話に「畸形児或いは異物の出産」が現れる理由として、「未開状態にある人々が、近親者同士の結婚では未熟児或いは不具児の誕生する率の大きいことを経験的に認知し、其の事実を一個の物語に纏めたもの、其れがヒルコ誕生譚の原初形態であ」ったと説く。[13] 加えて、小野明子は「生み損ないの神話には、近親相姦の罪を犯した結果として、ヒルコや四肢のない怪物、あるいは異類のものが生まれるという際立って特徴的な一面があらわれる」とし、[14] 続けて「ヒルコの誕生もインセストの代償的結果として現れるという神話特有の合理性が認められるのである。即ち、インセストの罪を他のもの—認可した神や人物あるいは不具の子・異類のものなど—に転嫁することによって自らの正当性を保持しようとする志向が存在すると考えられる」と繰り返す。[15]

さらに別の意見としては、兄妹結婚型の洪水神話を指して「兄妹結婚で生まれた肉塊は混沌を象徴し、それが切り分けられて、現在の秩序が生まれたのであった」という小南一郎の主張がある。[16] しかし、こう決めるのは早計であろう。というよりも、この問題は混沌や秩序といった曖昧な言葉で片

付けて良い問題ではないと思う。もちろん、生まれたものが肉塊だけなのであればそう考えて良いかもしれないが、生まれてきたものはそれだけではない。ここは結論を焦らず、他の事例も丹念にみていくべきと考える。

異なる意見をもう一つ挙げる。それは「人類が不完全な状態から、世代を累ねて段々完全になってゆくといふ考へ」の痕跡がヒルコの話に残っているという西村真次の見解である。[17] 西村はこの理由として、インドネシアのミナハッサに伝わる天から下りた男女が最初に手足の無い子を生み、その子がまた子どもを生みと世代を重ねる毎に人の形をした子が生まれるようになった神話を例に挙げている。[18] 確かに洪水型兄妹始祖神話にも進化的な性格を持った話は存在する。ただ、その絶対数は少ない。この例一つだけを見れば進化的ともとれるが、量的比較は重要であり事例の一つとしては受け入れられるものの、即断は出来ない。

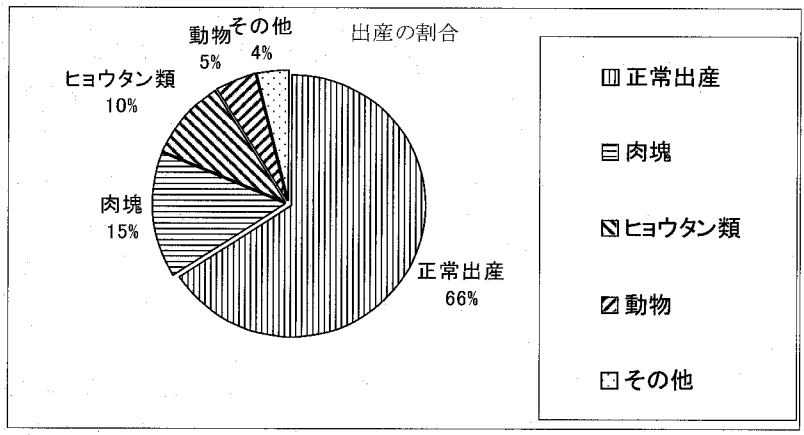
これらの論にみられるように、兄妹婚による異常出産は近親相姦の結果とみなされる傾向にあり、そうでないにしても失敗や生み損ないという考えが日本では支配的であるのと同時に、ヒルコの性格を海外の事例との比較によって決めることもある。本論では各地の事例を比較していくことにより、このようなとらえ方を批判的に検討したい。

2、話型の検討

表1には管見の及んだ兄妹始祖神話を項目に分けて掲載した。本来は全て載せるべきであるが、紙面の都合もあり特徴的な伝承のみを掲載した。また、明らかに兄妹（姉弟を含む）と分かる記述があるものを取り上げた。

最初に指摘したいのは、必ずしも兄妹婚を行ったからといって不具者が生まれるとは限らないことである。むしろ正常な出産の場合が多い。集めた202事例のうち、異常出産は62例。約3割程度でしかない。[19] 泥で人間を造ったという様な微妙な事例を除いても半分以上は正常な出産が行われている訳であり、この時点で、既に兄妹婚＝不具者の出産という方程式を短絡的に当てはめられないことが分かる。

また、一口に異常出産と言っても明らかに違いがあり、ただ異常児が生まれるだけでなく、その後の展開も異なる。そして、異常児の性格から大まかに3タイプに分けて論を進めていきたい。



①肉塊割散型[20]

兄妹婚により肉塊が生まれ、その生まれた肉塊を切り刻んで撒いたものが人間となったとする話。主に中国でみられる。例話として雲南省の彝族の伝承を挙げる。[21]

大昔、洪水が起こり人類は滅亡して、ただ大きなヒョウタンが漂うのみであった。水が引きヒョウタンが山に引っかかると中から兄妹二人が出てきた。兄妹が外に出ると、世界は荒涼として真っ暗だった。突然、二人の前に老人が現れ、

「心配するな。洪水は既に去った。天地は永遠に続く。二人で結婚して後世を繁栄させなさい。」

と言った。すると兄妹は、

「それは出来ません。私たちは兄妹です。」

と答えた。そこで老人は二人に山の上から臼を転がせ、下でぴったり重なったなら結婚するように言った。占いの結果、臼は重なったが兄妹たちは承知しない。次は兄が針を、妹が糸を投げ、針が糸を通れば結婚するよ

うにと老人は言った。今度もまたその通りとなり、遂に二人は結婚した。

1年後、妹が生んだのは頭も手足も無い肉団子であった。二人はそれを刀で切り刻み山の上から四方に撒いた。すると、その一つ一つが人間となり、兄妹は木の上で生まれたものには李姓を、石の上で生まれたものには石姓をというように名付けていった。こうして、人類は繁栄したのである。

肉塊における特徴は、切り刻まれ撒かれることにある。その破片はそれぞれの姓を持つ者、もしくはそれぞれの民族となる。姓の由来を説く場合は、肉塊を掛けられた木や散らばった際に落ちたものの名前がついたとしてる。

②瓜中発生型

兄妹婚の結果、ヒョウタン、カボチャ、瓜などが生まれたり、育てたヒョウタンなどから人が生まれたりする話。兄妹自身がヒョウタンから生まれた話も含める。主に東南アジア、中国南部でみられる。例話としてミャンマーのナガ族の伝承を載せる。(22)

大きな洪水がやってきた時、兄妹は丁度木の太鼓を作り上げたところだった。二人はそれに乗り込み、水上を漂った。どれくらいの時がたっただろう。兄が二度目に針で穴をあけて確認すると水は引いていた。二人は辺りを見回したが、何処にいるかも分からず、誰一人、葉っぱ一枚すら見当たらなかった。二人は結婚相手が欲しかったので、北と南に別れて旅立った。しかし、どこにも彼ら二人以外はいなかったのである。

すると、カッコウがこう鳴いた。

「兄妹たちよ、お互いを受け入れなさい。」

彼らはその鳥が二人に結婚しろと言っているのだと思った。そして、兄妹は結婚した。妹は妊娠3年目にヒョウタンを生んだ。毎日畑に通っているとヒョウタンの中から声がする。そこで熱い鉄の杖で刺してみると、その穴から最初にラメット族、次にインド人、そしてカム族、中国人、シャン族、モン族と西洋人が飛び出してきた。

これとは別に、熱い棒を刺したので最初に出てきた民族は肌の色が黒く、あとから出てきた者は白かったとする話や、ヒョウタンなどの種を蒔くとそこから人が生まれたという話もある。このタイプもまた様々な民族が生まれ

てくるところに特徴がある。

③動物産出型

兄妹婚によってまず動物が生まれ、出産を重ねた後に人間が生まれたとする話。主に南西諸島、台湾でみられる。ここでは多良間島の話を挙げる。[23]

兄妹が畑仕事をしていると、突然大波が押し寄せてきた。二人は丘に駆け登って力芝に掴まり助かった。しかし生き延びたのは兄妹だけで家屋も全てさらわれてしまっていた。

二人は結婚したが、最初に生まれたのが蛇とトカゲ、次がシャコ貝と麻苧、3回目でようやく人間が生まれた。こうして、島は再建された。

上記2例と違い、動物が生まれてくる場合はそのものが直接の始祖とはならない。どちらかというと、段階を踏んで人間が生まれるようになったという印象を受ける。

他のものが生まれたとする例もあるが、それはいずれかのタイプに集約できたり、採集数が極僅かなので一つのタイプとするまでには至らない。それでは、次に地域ごとの特色を見ていきたい。

3、南西諸島の事例

南西諸島の事例は全部で55。その中で異常出産を語るものは、わずか7例にとどまる。それも、いわゆる不具者ではなく生まれてくるのは全て動物であり、動物産出型となっている。詳しく見てみると、そのうち3例は家の建設によって人間が生まれるようになり、一つは“へだて”を作った後に人間を出産となっている。これは兄妹婚を行ったからではなく、モラルの欠乏によりきちんとした出産が行えていなかったため、動物が生まれたと考えても良いのではないか。

一例だけ血が近いので貝などを生んだ後に人間が生まれたとなっているが、これらの魚や動物の出産を不具者と同様に見なして良いものだろうか。生み損なうという観点では一緒かもしれないが、生まれたものの性質は明らかに違う。先にあげた進化的な説話の日本における例とも言えるだろう。

南西諸島の場合、兄妹婚自体を忌避する気持ちは感じられるものの、それが異常出産に繋がることは少ないのが分かる。むしろはっきりしているのは、生まれた子どもがどうかよりも、兄妹が結婚して島や村の始祖となり、その2人のお蔭で人々が繁栄し得たことを重要視している事である。そのせいか、沖縄の説話は直接洪水という表現を殆ど伴わない。近いのは津波や兄妹が漂着したとする話であろう。火の雨が降って人類が絶滅した例もある。

4、台湾の事例

台湾で管見に及んだのは14例。そのうち異常出産は5例。今回は割愛したが母子相姦も含めると異常出産の割合はもう少し下がることを付け加えておく。

さて、5例の内3例には初めて不具者という言葉が明記される。一つは出産を繰り返し、血縁が遠くなるに連れて正常な子どもが生まれるようになる。もう一つは、妹が潔斎することで健常児が生まれる。最後は二代目、三代目となるにつれ良い人間が生まれるようになったとしている。一つ目の伝承は血の濃さを理由にしており、三つ目の伝承も兄妹という組み合わせが不幸を招くとくくっている。これを伝えていたパイワン族は近親婚による弊害を知っていた可能性もある。そして、残りの二つは動物産出型であり、これは二つともがアミ族の伝承であることから、部族間における思考の違いも見えてくる。

また、沖縄では性交の際に葉を挟む事例が3例見られたが、それと同様に蓆を挟んで性交を行う例が台湾でも見られる。ところが、この性交時に葉を挟むという行為は中国や東南アジアには見られない。なおかつ、洪水を草に掴まって逃れた例も2例ある。これもまた、中国・東南アジアにはなく、南西諸島に力芝に掴まって津波を逃れたとする例があるだけであることから、兄妹始祖神話が台湾から沖縄へという伝播経路を辿ったと予想できる。さらに、葉を挟む行為は他には見られない清めの方法であり、兄妹婚を忌避する気持ちが強いために生まれたともとれる。なるほど、台湾の蕃社口碑には兄

妹婚を伴わなくとも、かつては近親間で婚姻が結ばれていたが、人口が増えたのでこれを禁じたとする伝承が幾つかある。これは台湾の原住民が他の地域よりも強く近親婚を忌避する観念があったように思える。この神話が台湾にもたらされた時、人々は拒絶こそしなかったが無邪気に受け入れもしなかった。それが、新たな清めの付与につながったのかもしれない。

ただ、分布から見て兄妹始祖神話の中心である中国南部、及び東南アジアからの地理的・時間的距離を考えると、時代が下ると共にその観念が強くなっていった事を表す可能性も捨てきれない。南西諸島を始め、信州を中心に道祖神説話にまつわる形でも兄妹相姦の末に自殺する話が残っている。これも時代が下るに連れて忌避感が増大した結果、始祖神話が変化して兄妹心中という人情物の様な話になってしまったと言えはしまいか。この点に関する詳しい言及については別の機会に譲りたい。

5、中国の事例

集まった事例は全部で111。異常出産は41例で、肉塊を出産した肉塊割散型が28例、瓜やヒョウタン、南瓜など瓜中発生型が10例、その他、皮袋、樹木、臼が3例となっている。主に遼寧省の漢民族に伝わる神話には、子供を産まずに泥から作るモチーフが数多く見られる。これは、中国の他にも各地に存在する人類創造神話の別モチーフが加わったものと考えられるので、今回の出産の問題とは少し異なる。

さて、異常出産の3分の2を占める肉塊であるが、手足の無い子、頭の無い子、瓜のように四肢の無い子といった表現も肉塊に含めている。これらの子は不具ではないのかと言われるかもしれないが、台湾の伝承で現れたような直接的な表現やヒルコのように3歳まで足が立たないといった性格とは少し違うし、中国にも兄妹婚から不具者が生まれるといった思想が強くなかったのは正常な出産の多さから見ても分かるだろう。また、肉塊は何れも切り刻まれて、その破片がそれぞれの人になり（百家姓[24]となる場合もある）、多くの人類が誕生する。この点から言っても、性格の違いは明らかである。

もう一方の生み損ないについても、いくつかの伝承で肉塊の出産に悲しみや怒りを示す例があるものの、神に出産が失敗でないことを告げられるなど、単純に肯定出来ない部分がある。ただし、兄妹婚に対する忌避感はほぼ100%見られる。念入りなものは2度も3度も占いが行われ、かなりの気持ちの強さを感じる。

何よりも注目したいのは初めて現れるヒョウタンなどを産み落とす話である。肉塊と同じく、このヒョウタンからも多くの種族が生まれてくる。一つのものから沢山の人が生まれる。この共通点をどう考えるべきか。これに関しては改めて述べる。

ちなみに、避水具としても使われるヒョウタンは雷神からもらった歯を植えて出来たもののことがある。これは、ヒョウタンの種が人の歯の形に似ているところから来ているのかもしれない。歯を蒔いてヒョウタンが生えてくるモチーフは南西部の少数民族に顕著である。

6、東南アジアの事例

東南アジアの例は19。異常出産9例のうち、8例が瓜中発生型となっている。残りの1例は皮袋。ここには不具者が生まれた話はない。ただ、正常な出産の中に1例だけ兄妹婚を悔やんだ二人が神に相談した結果、子どもたちに自らの首を切らせ神へ捧げる話がある。

ここでは肉塊が現れない代わりにヒョウタン類の割合が激増する。ヒョウタンとカボチャは違うイメージを持つかもしれないけれども、両方ともウリ科の植物であり、ヒョウタンには様々な形状があってカボチャの様な形も勿論あることから、同じものとしてみて良いだろう。

また、兄妹婚への忌避感が見られるものの、血が近いせいで異常出産が起こったとされる話は1つもない。腹からヒョウタンが生まれても、嘆く様子すらない。すなわち、兄妹同士の結婚に関してはともかく、出産については兄妹であることに何らリスクを感じていないのではないか。東南アジアでも、これまで同様正常な出産の方が多い。ヒョウタンが生れた時の無反応さから

考えても、ヒョウタンやカボチャの生まれる話が近親相姦のタブーを犯した故に起こったとは言えないと思われる。

7、ヒョウタンと肉塊

ヒョウタンと人類の繋がりは古い。アフリカが原産地とされ、タイ北西部にあるメーホソンでは1万年前から6千年前とみられる堆積層からヒョウタンの破片が大量に見つかり、このころから既に食用としていたとみられている。[25] 最古の栽培植物とも言われ、その用途は多岐にわたり、容器のみならず楽器や儀礼具など様々に用いられてきた。現在でもヒョウタンを日用品として使い続けている民族は多い。鈴木健之は古くから栽培されていた点と火を使わなくても加工ができる点から、ヒョウタンを貝殻と共に「人類最初の容器」の一つと推測する。[26] これほど広まったのには、繁殖能力が強いことや種が沢山とれることも関わってくるだろう。

これだけ古くから人々の生活に深く関わりのあるヒョウタンが神話に登場するのは当然と言える。そして、もちろん兄妹婚を伴わない瓜中発生神話も多々ある（表2）。[27] 表2にまとめた20例以外にもまだ瓜中発生神話は多く存在するという。さて、ここで問題にしたいのは肉塊というモチーフが元々ヒョウタンだったのではないかということである。東南アジアには竹を始めとして植物から人類が生まれる神話がいくつもある。[28] つまり、ヒョウタンから人が生まれるという考えがあっても不自然ではないし、それが生活と密着していたものとなれば尚更だろう。加えて、ヒョウタンは自然発生するが、肉塊は人の腹以外から現れる例はない。このことから考えても肉塊モチーフにやや事後的印象を持たざるを得ない。

さらに注目すべきは、「頭と足の無いカボチャのような子」、「四肢の無い瓜のような子」、「耳目の無い瓜のような子」や、中から人が現れる点で共通する皮袋といったヒョウタンと肉塊の中間的存在が確認されることである。[29] 一般的なヒョウタンのイメージは胴に括れのあるものかもしれないが、ヒョウタンの種類は豊富で球状のものなども存在する。加えて、表2の№16、ビ

ルマのカチン族の伝承には、ヒョウタンに四肢を付けたとある。逆説的に言えば、人から四肢を取った状態はヒョウタンと同じ形状となるのではないか。人から四肢を取った状態、すなわち肉塊である。

なおかつ、兄妹たちが洪水を生き残るための乗り物はヒョウタン類となっていることが多い。もし、肉塊が先であればヒョウタンの中に入って洪水を生き延びるという発想は生まれ難いであろう。そして、肉塊という曖昧なものよりも、ヒョウタンの方がイメージし易いこともある。

中国において始祖となる兄妹の名前は伏羲、女媧であることが多い。文献において両者は文化英雄、創造神として描かれているが、聞一多は名前の音に注目し、伏羲の伏は匏、瓠に、羲は瓢などと同音であり、共にヒョウタンの意となるとした。女媧に関しても、媧は瓜に通じるところなどから、「伏羲と女媧は、名こそ二つだが意味は実は一つなのだ。二人は元来共に葫蘆の化身なので、異なるのはただ性別のみである。」と説く。続けて、「苗族の伝説は南瓜〔かぼちゃ〕を伏羲女媧の二代目だとしている。漢族は葫蘆（瓜）を伏羲女媧自身だとする。」と言っている。(30) ヒョウタンの化身たる兄妹がヒョウタンを生み、そこから人類が生まれた。要はヒョウタンから人類が生まれたのと同じことである。このことも、ヒョウタンが人類を生む意識の方が強かったことを示す。彝語でヒョウタンの事を西伏（伏羲）と呼ぶという百田の指摘も聞の考えを補足するものとなるだろう。(31)

民俗の面からもウリと人の関係が窺える。中国語では処女を失うことを「破瓜」、「開瓜」という。(32) ここで子宮をウリにたとえている。鈴木が言うように、ヒョウタンを棒で突いたり切ったりすることが「性交のアナロジー」とまでなるかは分からないけれども、ここからもヒョウタンから人が生まれるというモチーフの蓋然性が分かる。(33)

他にも湖南省や貴州省では出産祈願のため、子どもがいない夫婦に近所の人が冬瓜やカボチャを盗んできて家に忍ばせたり、子どものいない両親に渡したりする儀礼がある。(34) 当然ながらこれは冬瓜などを子どもに見立てているわけであり、ウリ＝人間となる。

次に、ウリと肉塊の関係が分かる事例を紹介しよう。広東省では胞衣と一

緒に生まれた胎児を、冬瓜やカボチャ、牛馬や蛇に姿が似ているところから怪胎と呼ぶ。[35] この胎児はすぐに体を覆われ、鳴き声がしたら（つまり、胞衣を取ったら）覆いを外し、赤子が姿を現す。ここではこの一連の行為がウリから人が生まれると取れるのと同時に、怪胎という表現から見て肉塊とも繋がってくるのではないか。ウリと肉塊は形状の点では紙一重なのである。

ヒョウタンから人が生まれるのと人からヒョウタンが生まれるのは交換関係にあるが、肉塊と人には交換関係が成り立たない。そして、ヒョウタンから人が生まれるモチーフがあったからこそ、人から生まれてきたヒョウタンは肉塊のように切り刻まれ、ばら蒔かれることなく、本来の使命である人類の排出を行ったのである。加えて、ヒョウタンから沢山の人々が生まれるモチーフがあったために、中に入れない、人の入る余地のない肉塊は切り刻まれ人と化したのである。

ヒョウタンから肉塊への派生に関しては、服部旦も「岐美神話と洪水型兄妹相姦神話」で肉塊の様な球形のものが多く生まれる事が伝承の核であることを指摘し、「当初は手足のない不具児が生まれ、それがやがてのっぺらぼうの肉球となり、遂には瓜、葫蘆、南瓜、皮袋等になる変化の過程よりも、逆に瓜や葫蘆から磨石・鶏卵・肉団・肉球のごときになり、それがさらに人態化して」いったと述べている。[36] ただ、その理由を「やわらげ」、つまり「兄妹婚の直接の結果が直ちに人祖や族祖になるのを避けるための、ワン・クッションの役割を持つもの」とし、それは「嫌悪の直接的表現ではなくて、兄妹相姦と始祖とを直結させないという消極的表現」であるというが、これには聊か疑問が残る。[37]

どの民族も大抵の場合、兄妹の婚姻に忌避観を持っているのは認めるけれども、それは神や動物、占いなど第三者の介在を以って解消されることが多い。そして、伝承の中では婚姻＝出産なのであり、生まれてきた子どもにまで「やわらげ」たる役目を持たせる必要があるだろうか。そもそも、そこまで合理的な思考を持っていたと考える方が難しい。ならば、やはり兄妹婚モチーフを伴わずともヒョウタンや竹などの植物から人が生まれる神話が洪水型兄妹始祖神話の伝わる地域と分布が重なることから鑑みて、ウリから人が

生れるモチーフは「やわらげ」のために生れたのではなく、植物から人が生れるモチーフを起源とするのが妥当であろう。

結論

以上に述べたことをまとめて結論としたい。集めた事例から鑑みて、かつて南西諸島や台湾、中国南西部及び東南アジアで、兄妹婚により不具者が生まれる観念は支配的でなかった。中国南西部、東南アジアでは始まりは植物から各民族が生まれる神話であり、その植物が伝承地域で生活に関連のあるヒョウタン類になった。また、人とウリが交換関係にあることから、ヒョウタンの化身もしくは、人自身がヒョウタンを産む形に変わっていく。そして、恐らくはその形状を主な理由とし、生まれるものは肉塊へと変化する。[38] つまり、瓜中発生型から肉塊割散型へと変化していったと考える。

ただ、台湾と南西諸島では趣が違ってくる。南西諸島ではヒョウタンや肉塊は一切生まれず、正常出産の割合が高く、異常出産の場合も動物や魚が生まれる。台湾も同様に動物が生まれる事例と共に、明確な不具者という表現が現れる。両地域とも複数の民族が生まれるモチーフは影を潜め、殆どの場合自らの始祖のみの誕生を描き、南西諸島においては島の始祖の出現に重きを置く。この動物が生まれる例をもってしては、到底ヒョウタンや肉塊と結びつけることは出来ない。それと同時に、兄妹婚のモチーフが共通しているからといって、すべての兄妹始祖神話を一くくりにするのが不可能であり、始祖にもならないヒルコを本質がヒョウタンである肉塊の例と単純にイコールで結ぶこともまた難しいのではないか。兄妹婚によって生まれ出ずるものは、それぞれが異なった性格を持っている事に気付かなければならない。全てを産み損ないの一言では片付けきれないのである。

繰り返すが、伝承の数的比較によれば、東アジアに広がる兄妹始祖神話を語り始めた人々が、近親婚によって異常児が誕生しやすくなるという認識を持っていた可能性は低い。すなわち、現代に生きる我々が持つ思考は当てはめられない。そして、イザナギ・イザナミを兄妹として、その子、ヒルコを

考える時に中国の事例と比較して不具者と考えるならば、まずは肉塊がいわゆる不具であることを証明しなければならない。さらには、肉塊が生れた時の兄妹の反応や関連する伝承など隅々まで分析し、近親婚から不具者が生れるという考えがマイノリティであることをはじめ、全ての状況で肉塊=不具の方程式が当てはまるわけではないという幾つかの前提条件を明示した上で初めて比較が出来る。もちろん、一連の伝播は認めるけれども、同じようなモチーフを伴うからといって、盲目的にただ比較すれば良いのではない。

ヒルコに話を戻そう。ヒルコの性格を比較によって不具者とする時、台湾の一事例と比較して不具の可能性があるとするならば、まだ納得がいく。しかし、同じ台湾でも動物の例を持ってして生み損ないでもなく不具とするには、いささか無理があるように思われる。中国との比較の場合もまた、本質がヒョウタンである肉塊をすぐに不具とは断定できない。

そもそも、中国・東南アジアと台湾・南西諸島では兄妹が様々な部族の祖先か単一の祖先かが異なっている。これによって生れてくるものの性質も変わってくる。当然のことながら南西諸島には多くの民族や何百もの姓を持つ人々はいない。ヒョウタンも肉塊も成立できる場所は限定されているのである。その限定的存在を兄妹始祖の伝承があるからといって、地域ごとに本質が違うものを統一して考えることは危険である。ヒルコが不具者であることを完全に否定はしないが、他国の事例を全面的な論拠とすることに疑念を禁じえない。

伝承は様々な要素が入り込み複雑に絡み合い成立する。それは余所から入ってきた思想であり、そこに住む人々の地域性、そして時代性もまた反映される。今回取り上げた兄妹始祖神話もよく見てみれば、数多くのモチーフの存在を確認できる。比較民俗学ということが提唱されているけれども、そこで重要なのは同じ部分があるかどうかという事より、互いの民俗に関連があることを認めつつも異なる部分を見つけ出し、その相違が何故生まれたかを考えることが重要なのではないか。そうすることによって初めて比較というものが成される筈である。改めて言うまでもないことだったかもしれないが、一応言及しておく。

今回は資料の偏りのため、圧倒的に肉塊の例が多かったが、さらに東南アジアの神話を詳しく調べれば、より兄妹始祖神話の各地域における本質が探れるかもしれない。加えて、ヒョウタンも生活と密着していたからこそ神話に登場するのであり、東南アジアの民の生活も更に探る必要が有る。それは今後の課題としたい。

〈註〉

(1) B・マリノウスキー　1978『未開人の性生活』泉靖一・蒲生正男・島澄訳　新泉社　131～132

(2) 前掲1　143ページ

(3) 前掲1　138～147ページ

(4) 前掲1　348～349

(5) 石田英一郎・江上波夫・岡正雄・八幡一郎　1958『日本民族の起源　対談と討論』平凡社　45ページ

(6) 1962『宗教研究』第35号171第4輯　日本宗教学会　55～56ページ

(7) 中国において伏羲は文化英雄、女媧は創造神とされる。両者は兄妹だったとも言われ、洪水を生き残る兄妹の名としても度々現れる。

(8) 1970『日本神話と古代生活』有精堂　142～143ページ

(9) 1979『日本神話と中国神話』学生社　75ページ

(10) 谷川健一編　1972『叢書　我が沖縄　第五巻　沖縄学の課題』木耳社　192ページ

(11) 1973『古事記研究』未來社　61ページ

(12) 大林太良　1973「琉球神話と周囲民族神話との比較」『沖縄の民族学的研究』民族学振興会　365～367ページ

(13) 1988『記紀神話伝説の研究』六興出版　45ページ

(14) 大林太良編　1974「日本神話とインドネシア」『日本神話の比較研究』法政大学出版局　165ページ

(15) 前掲13　167ページ

(16) 2005「中国の洪水神話」『世界の洪水神話』勉誠出版　97ページ

(17) 1922「日本神話の神話学的研究」『早稲田文学』198号　59ページ

(18) 前掲17　58～59ページ

(19) 生まれたものや始祖の欄で空いているところは、「そこから人々が増えた」な

ど抽象的な表現であることを注記しておく。

(20) 切り刻んだ後に撒くという意味の適切な言葉が見つからなかったため、割散（かっさん）という言葉を使用することとした。

(21) 表１　No.48の事例を筆者が意訳し要約したもの。

(22) 表１　No.115の事例を筆者が意訳し要約したもの。

(23) 表１　No.12の事例を筆者が要約したもの。

(24) 中国には姓が数多く存在し、それを総称してこう呼ぶことがある。

(25) 佐々木高明　1982『照葉樹林文化の道』日本放送出版協会　72～74ページ

(26) 1984「葫蘆考―中国におけるヒョウタンをめぐる民俗文化の諸相―」『東京学芸大学大学紀要　第２部門　人文科学』第35集　東京学芸大学紀要出版委員会　189ページ

(27) 中から人が生まれる植物がヒョウタン、カボチャなどウリ科の植物であることから、本論文ではこう呼ぶこととする。なお、ウリとカタカナ表記している場合は瓜のみを指すのではなく、ウリ科の植物全般と捉えていただきたい。

(28) 大林太良　1990『日本神話の起源』徳間書店　32～34ページ

(29) 表１ No.44、No.98、No.99、No.58・120より

(30) 聞一多　1989『中国神話』東洋文庫497　中島みどり／訳注　93～96ページ

(31) 百田弥栄子　2004『中国神話の構造』三弥井書店　103ページ

(32) 前掲26　198ページ

(33) 前掲26　198ページ

(34) 胡暁「饒有風趣的『送子』活動」『民間文学』1985年２月号、彭勃輯注「土家族竹枝詞」『楚風』総６期、羅玉梅「南瓜崽的伝説」『南風』1990年第２期

(35) 清水「翁源出産風俗」『民俗』第38期、袁洪銘「東莞生産風俗談」『民俗』第82期

(36) 横田健一編『日本書紀研究　第八冊』1975　塙書房　260ページ

(37) 前掲36　261～262ページ

(38) 忌避観の増大は、神の助言の拒否や神占を複数回行う点からも指摘できる。

参考文献

アヌマン・ラチャトン「タイ民族の話」草稿　江尻英太郎訳（「竹中生誕譚の源流」『東亜民族文化論巧』所収）

綾部恒雄　1971『タイ族　その社会と文化』弘文堂

Alan Dundes　1988『The Flood myth』University of California Press
粟田口省吾　1998『世界ひょうたん風土記』木の森
飯倉照平　1983『雲南の民族文化』研文出版
生田滋　1977「東南アジアの建国神話」『日本神話の比較研究』法政大学出版局
伊藤清司　1989「二度の人類起源―中国西南少数民族の創世神話―」『被害アジアの創世神話』弘文堂
伊藤清司　1972「日本神話と中国神話―イザナギ・イザナミの近親相姦―」『国文学解釈と鑑賞　日本神話の世界』至文堂
稲村賢敷　1972『宮古島庶民史』三一書房
岩倉市郎　1955『おきのえらぶ昔話』古今書院
岩崎蝶仙　1931「鼠の花籠（1）」『旅と伝説』第4年第1号　三元社
イヴ・ボンヌフォワ編　2001『世界神話大事典』大修館書店
上地太郎　『狩俣民俗史』（『日本伝説大系 15』所収）
雲南省編集委員会編　1981『ラフ族社会歴史調査（二）』（「葫蘆考」所収）
雲南省民族民間文学紅河調査隊　1978『阿細的先基　阿細民間史詩』雲南人民出版社
雲南省民族民間文学楚雄、紅河調査隊集・郭思九、陶學良整理　1981『查姆：彝族史詩』雲南人民出版社
雲南省民族民間文学楚雄調査隊　1978『梅葛　彝族民間史詩』雲南人民出版社
雲南人民出版社　1984『哈尼族民間故事』哈尼族民間故事編輯組
雲南大学学報編集部　1981「彝族的図騰与宗教的起源」『思想戦線』1981年6期　雲南人民出版社
雲南大学中文系少数民族言語文学教研室編　『雲南民族文学資料集十八集　独竜族文学資料』（「二度の人類起源」所収）
雲南拉祜族民間文学集成編委会編　1988『拉祜族民間文学集成』中国民間文芸出版社
Evans,I.H.N.　1953『The Relilgion of the Tempasuk Dusuns of North-Borneo』（小野朋子「日本神話とインドネシア」大林太良編『日本神話の比較研究』1974　法政大学出版局　所収）
袁珂　1971『中国古代神話（1）』伊藤敬一、高畠穣、松井博光訳　みすず書房
袁家驊　1953『阿細民歌及其言語』北京科学院（「岐美神話と洪水型兄妹相姦神話」所収）
鴎鵬勃編　1983『景頗族民間故事』雲南人民出版社
大川恵良　1974『伊良部郷土誌』大川恵良
大林太良　1990『日本神話の起源』徳間書店
大林太良　1994『神話と神話学』大和書房
大林太良編　1976『世界の神話』日本放送出版協会

大林太良編　1996『古代史と日本神話』大和書房
大林太良編　2005『世界神話事典』角川書店
沖縄国際大学口承文芸研究会　『昭和48年度　沖縄国際大学口承文芸研究会採集稿』(『日本伝説大系 15』所収)
沖縄国際大学口承文芸研究会　『昭和57年度　沖縄国際大学口承文芸研究会伊平屋村調査草稿』(『日本伝説大系 15』所収)
菊千代　1985『与論のしまがたり(ユンヌ・ヌシマムヌガッタイ)』はる書房
貴州省社会科学院文学研究所、黔南布依族苗族自治州文研室　1982『布依族民間故事』貴州人民出版社
貴州省民族事務委員会・中国民間文芸研究会貴州分会編『民間文学資料』第四十九集(「二度の人類起源」所収)
君島久子　1983『中国の神話』筑摩書房
君島久子編　1989『東アジアの創世神話』弘文堂
熊谷治　1984『東アジアの民俗と祭儀』雄山閣出版
黒板勝美,国史大系編修会編　1967『国史大系（第17巻)』吉川弘文館
慶世村恒任　1955『宮古史伝』南陽印刷
厳汝嫻編　1996『中国少数民族の婚姻と家族（中巻)』江森五夫監訳　第一書房
栄久元　1971『奄美大島与論島の民俗語彙と昔話』奄美社
古典と民俗学の会編　1979『沖縄県久高島資料　古典と民俗学叢書３』古典と民俗学の会
佐喜真興英　1922『南島説話』郷土研究社
佐山融吉・大西吉寿　1923『生蕃伝説集』杉田重蔵書店
Ｊ・Ｇ・フレイザー　1976『旧約聖書のフォークロア』江河徹ほか訳　太陽社
Ｊ・Ｇ・フレイザー　1984『洪水伝説』星野徹訳　国文社
篠田知和基、丸山顕徳編　2005『世界の洪水神話　海に浮かぶ文明』勉誠出版
崎原恒新　1981「崎原恒新」『沖縄民俗研究』３号　沖縄民俗研究会
島袋盛敏　1998『柳田國男の本棚（第21巻）球陽外巻遺老説傳』大空社
祝发清、左玉堂、尚仲豪編　1985「盤古造人」『傈僳族民間故事選』上海文芸出版社
朱桂元編　1984『中国少数民族神活汇編　人類起源篇』中央民族学院科研処（「二度の人類起源」所収)
朱宜初　1980「タイ族古老神話漫歩」『民族文化』1980年１期（「葫蘆考」所収)
常任侠　1983「沙坪壩出土之石棺画像研究『説文月間』第一巻第十一十一期合刊(「西南中国の少数民族にみられる洪水神話」所収)
清水純　1998『台湾原住民研究・資料叢書４　噶瑪蘭族神話伝説集』南天書局
瀬戸内町町誌編集委員会編　1977『瀬戸内町誌（民俗編)』瀬戸内町

台北帝国大学言語学研究室編　1967『原語による台湾高砂族伝説集』刀江書院
竹内譲　1969『喜界島の民俗』黒潮文化会発行
谷川健一　1983「辺境の神話学―柳田学と折口学」『谷川健一著作集３』三一書房
Damiana L. Eugenio　2001『Philippine folk literature : The myths』（Philippine folk literatureseries;v.2）University of the Philippines press
多良間村役場編　1981『多良間村の民話』多良間村役場
多良間村誌編纂委員会　1973『村誌たらま島　孤島の民族と歴史』多良間村
中央研究院歴史語言研究所　『国立中央研究院歴史言語研究所集刊』第17本　中央研究院歴史語言研究所（『中国神話の構造』所収）
中国民間文学集成全国編輯委員会編　1992『中国民間故事集成　雲南上冊』中国文化出版
中国民間文学集成全国編輯委員会編　1992『中国民間故事集成　河南准陽巻』中国文化出版
中国民間文芸研究会主編　1962『雲南各族民間故事选』人民文学出版社
中国民間文芸研究会主編・李星華記録整理　1982『白族民間故事伝説集』中国民間文芸出版社
趙安賢唱、楊葉生訳、蘭克、楊智輝整理　1983『遮帕麻与遮米麻』（「葫蘆考」所収）
張道藩主編・常任侠編著　1943『民族芸術考古論集』正中書局
陳国鈞　1964『台湾土着社会始祖伝説』幼獅書店（『東アジアの民俗と祭儀』所収）
東京帝国大学,理科大学編　1907『苗族調査報告』東京帝国大学
中尾佐助　1966『栽培植物と農耕の起源』岩波書店
中島悦次　2003『大東亜神話』ゆまに書房
なご民話の会　『じーる』４号（『日本伝説大系 15』所収）
西村康彦　「天怪地奇の中国」『芸術新潮』1990年９月号
日本放送協会編　1981『全国方言資料　第11巻』日本放送出版協会
根岸範子・前田初江　訳　1994『ラオスの民話』黒潮社
平山輝男編　1969『薩南諸島の総合的研究』明治書院
Finot,L.　1917『Recherches sur la kittérature laotiane.』BEFEO ＸＶＩＩＩ No.5（『タイ族　その社会と文化』所収）
福田晃　1992『南島説話の研究』法政大学出版局
福田晃編　1989『日本伝説大系　15』みずうみ書房
福田晃編　1980『日本の昔話（30）』日本放送出版協会
普珍　1993『中華創世葫芦―彝族破壺成親、魂帰壺天―』雲南人民出版社
松本信広　1968『東亜民族文化論攷』誠文堂新光社
M.C.コール　1972『フィリッピンの民間説話』（民俗民芸叢書 69）荒木博之訳　岩崎

美術社
マリア・ロ・コロネル　1997『フィリッピンの民話』青土社
水野修　1971「兄妹穴」『徳之島採集手帳』12号　徳之島郷土研究会
水野修採話　1976『徳之島民話集』西日本新聞社
三吉朋十　1942『比律賓の土俗』丸善
村武慶　1965「琉球・八重山の宇宙開闢説話」『民族学研究』30巻3号　誠文堂新光社
村松武雄　1955『日本神話の研究　第二巻』倍風館
村松武雄編　1979『世界神話伝説大系　15』名著普及会
宮古郷土史研究会編　1978『宮古島旧記』宮古郷土史研究会（『日本伝説大系 15』所収）
宮古民話の会　1980『ゆがたい　宮古島の民話』第4集　宮古民話の会
宮良高弘　1972『叢書わが沖縄　別巻　波照間島民俗誌』木耳社
三吉朋十　『南島動物誌』1942　モダン日本社（「岐美神話と洪水型兄妹相姦神話」所収）
民間文学雑誌社　1957『民間文学』1957年7月号　通俗読物出版社
民間文学雑誌社　1959『民間文学』1959年8月号　通俗読物出版社
民間文学雑誌社　1964『民間文学』1964年第3期　通俗読物出版社
民間文学雑誌社　1990『民間文学』1990年3月号　通俗読物出版社
民族文化研究會　『民族文化』1980年12月号（『中国神話の構造』所収）
民族問題五種叢書雲南省編集委員会　1983『白族社会歴史調査』雲南人民出版社
村上順子　1996「西南中国の少数民族にみられる洪水神話—ミャオ・ヤオ族、イ語系諸族を中心にして—」『古代史と日本神話』大和書房
モオリス・アバティ　1944『トンキン高地の未開民』民族学協会調査部訳　三省堂
森本泰行　2004「人とヒョウタンのかかわりあい」『生物の科学　遺伝』2004年9月号　北隆館
百田弥栄子　1996「南島説話と中国—人類起源の物語」『民話の原風景』世界思想社
百田弥栄子　1999『中国の伝承曼陀羅』三弥井書店
諸見清吉編　1981『伊平屋村史』伊平屋村史発刊委員会
山下欣一　1972「南西諸島の兄妹始祖神話をめぐる問題」『昔話伝説研究』2号　昔話伝説研究会
山下欣一「小湊のシマダテ」『奄美民俗研究ノート　一号』（『日本伝説大系 15』所収）
山田宋睦　1973「かくれた歴史を照らす瓢箪」『朝日ジャーナル』1973年vol.15　朝日新聞社
湯浅浩史　1979「ヒョウタンはアフリカが原産地？」『科学朝日』1979年8月号　朝

日新聞社
横田健一編　1975『日本書紀研究　第八冊』塙書房
読谷村教育委員会歴史民俗資料館編　1979『読谷村民話資料集１　伊良皆の民話』読谷村教育委員会歴史民俗資料館
読谷村教育委員会歴史民俗資料館編　1980『読谷村民話資料集２　喜名の民話』読谷村教育委員会歴史民俗資料館
読谷村教育委員会歴史民俗資料館編　1981『読谷村民話資料集３　長浜の民話』読谷村教育委員会歴史民俗資料館
読谷村教育委員会歴史民俗資料館編　1986『読谷村民話資料集８　高志保の民話』読谷村教育委員会歴史民俗資料館
李卉　「台湾及東南亜的同胞配偶型洪水伝説」『中国民族学報』第一期（「日本神話と中国神話」所収）
立命館大学説話文学研究会『昭和六十二年度　立命館大学説話文学研究会採集稿』（『日本伝説大系 15』所収）
Lindell, Kristina ; Swahn, Jah-Öjvind ; Tayanin, Damrong　1984『Pearls of Kammu literature』(Folk tales from Kammu ; 3) Curzon Press
琉球大学民俗研究クラブ　1966『沖縄民俗』12号
劉允禔、陳学明整理　1980『葫蘆的伝説（ワ族民間神話史詩)』(「葫蘆考」所収)
劉小幸　1990『母体崇拝　彝族祖灵葫芦遡源』雲南人民出版社
Louis Herbert Gray編　1964『The mythology of all races』Ⅸ、ＸＩＩ Cooper Square Publishers
Lunet de Lajonquière『Ethnographie du Tonk'n Septentrional』1906　Paris　(『東亜民族文化論攷』所収)
W・コッパース　1957『未開人の世界観　文化人類的考察』白鳥芳郎訳　三和書房
「媒人講大明書」(『東亜民族文化論攷』所収)
『昭和五十一年度　宮古諸島昔話合同調査採集稿』(『日本伝説大系 15』所収)

表１　異常出産を伴う兄妹始祖神話

	場所	出来事	避災法	婚姻、性交に先立って
1	日本			
2	奄美大島			ツワブキの葉を挟んで性交
3	請島			ツワブキの葉を挟んで性交
4	沖縄本島	天から降りる		岩を回って他人となる
5	伊良部島	天から降ろされる		
6				２人の間に強くへだてを持って作る
7	伊良部島	産子神として降ろされる		
8				ユナの葉を置いて交わる
9	多良間島	津波	力芝に掴まる	
10	多良間島	大波	力芝に掴まる	
11	波照間島	油雨	ミシクヌガマ	
12				ミシクの上に移り住む
13				ヤグに小屋を造って井戸を掘る
14	波照間島	油雨	洞窟で白金の鍋を被る	神が産石を授ける
15				茅舎を建て移り住む
16	波照間島	油雨	海の洞窟	
17				ミシクの洞窟に移り住む
18				草葺の家を作り、農耕を始める
19	台湾			
20	アミ族	海嘯	臼	筵を挟んで性交
21	アミ族	熱湯の噴出	臼	太陽の許可
22				月の教えにより筵を挟んで性交
23	アミ族	大波	臼	
24				母神から竹を授かり、その中から現れた豚を供犠
25	アミ族	洪水と熱湯の噴出	臼	
26	パゼッヘ族	洪水	山頂に漂着	
27	タイヤル族	巨樹の根の股に挟まっている石から生まれた両親の死亡		妹が顔を黒く塗って兄を騙す
28	サゼク族	巨石から生まれた両親の死亡		妹が顔に煤を塗り兄を騙す
29	パイワン族			
30				
31	パイワン族			
32				5日間山で潔斎
33	パイワン族	洪水	草に掴まって	
34				
35				
36	クヴァラン族	島が沈没し、水の中から水が沸き上がる		兄が妹を騙す
37	クヴァラン族		船	姉が変装して弟を騙す
38	中国			
39	傜傜族（雲南省）	洪水		
40	基諾族（雲南省）	洪水	木の太鼓	神の同意
41	布朗族（雲南省）	洪水		箕による神占
42	苗族（雲南省）	洪水	ヒョウタン	木、針、臼による神占

生まれてきたもの	始祖	出典	タイプ
		瀬戸内町誌　民俗編	
		瀬戸内町誌　民俗編	
		喜名の民話	
ブス、アバ（魚）、ウナギ		沖縄の昔話	動物産出型
真人間			
ブフズ、アバ、ウナギ		伊良部郷土誌	動物産出型
真人間			
血が近いのでシャコ貝、苧糸、蛇、トカゲ、人間		多良間村の民話	動物産出型
蛇とトカゲ、シャコ貝と麻苧、人間		村誌・多良間島	動物産出型
ポーズ（魚）		波照間島民俗誌	動物産出型
ハブ			
人間			
毒魚		鼠の花籠（1）	動物産出型
男女			
クラゲ		辺境の神話学	動物産出型
ムカデ			
人間			
		生蕃伝説集	
2個の怪物が生まれ、産衣を裂いて川に流す	魚と蟹	生蕃伝説集	動物産出型
白石。そこから4人の子ども	アミ族と台湾人		
蛇、蛙		生蕃伝説集	動物産出型
女、男、女			
2人の男女		生蕃伝説集	
二子。切り刻んで息を吹きかけると若者たち		生蕃伝説集	
		生蕃伝説集	
		生蕃伝説集	
不具者		生蕃伝説集	
血縁が遠ざかるに連れて完全な子孫			
鼻、耳のない不具者		生蕃伝説集	
美しい男女			
盲目、手足の障害、体に傷がある者		原語による台湾高砂族伝説集	
やや良い子			
良い子			
男の子		噶瑪蘭族神話伝説集	
		噶瑪蘭族神話伝説集	
生えてきた瓜を切ると5人		国立中央研究院歴史語言研究所	瓜中発生型
育てたヒョウタンから人	彝族、漢族、タイ族、基	中国民間故事集成　雲南上冊	瓜中発生型
頭の無い怪物。刻んで撒くと人		中国民間故事集成　雲南上冊	肉塊割散型
頭と足の無いカボチャのような肉塊。切り刻むと人	苗族、彝族、瑤族、壮族、漢族など	中国民間故事集成　雲南上冊	肉塊割散型

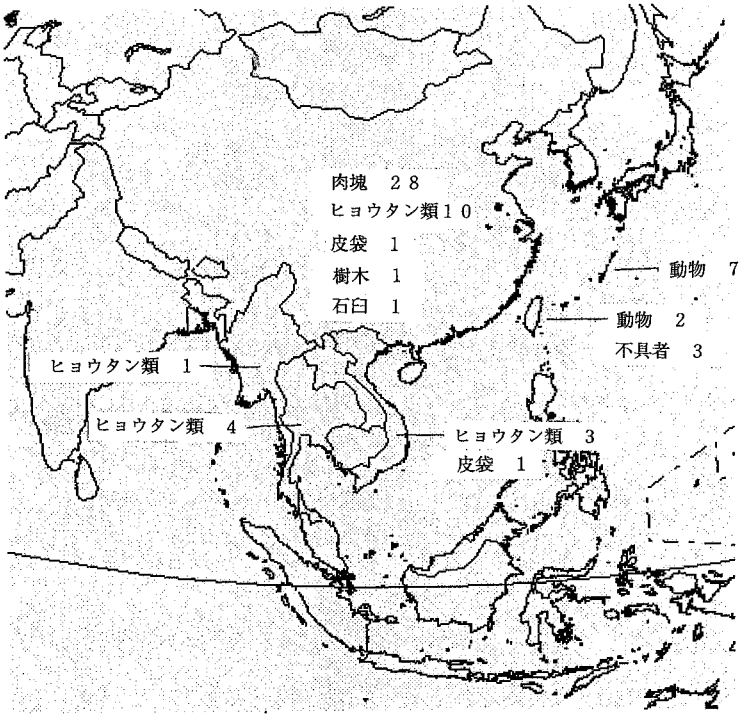
	場所	出来事	避災法	婚姻、性交に先立って
43	水族（雲南省）	洪水		針、臼による神占
44	壮族（雲南省）	洪水	ヒョウタン	
45	瑤族（雲南省）	洪水	ヒョウタン	臼による神占
46	彝族（雲南省）	洪水	木櫃	箕による神占
47	彝族（雲南省）	洪水	木櫃	針、箕、臼による神占
48	彝族（雲南省）	洪水	木の箱	針、臼による神占
49	彝族（雲南省）	洪水	ヒョウタン	針、臼による神占
50	彝族（雲南省）	洪水	木櫃	臼、箕による神占
51	彝族（雲南省）	ネズミがかじったヒョウタンから姉弟		
52	彝族（雲南省）	神が落としたヒョウタンをネズミがかじって中から兄妹		
53	ラフ族（雲南省）	洪水	ヒョウタン	臼による神占
54	ラフ族（雲南省）	ヒョウタンから兄妹		
55	ラフ族（雲南省）	神が植えたヒョウタンをネズミがかじって中から兄妹		臼、篩、による神占
56	白族（雲南省）	洪水	金の太鼓	煙、金の魚、臼による神占
57	景頗族（雲南省）	洪水	牛皮の太鼓	山から落ちる
58	哈尼族（雲南省）	洪水	ヒョウタン	臼による神占
59	哈尼族（雲南省）	洪水		
60	阿昌族（雲南省）			臼による神占
61	漢族（四川省）	天変地異		針、煙、臼による神占
62	漢族（四川省）	洪水	ヒョウタン	
63	漢族（四川省）	洪水	ヒョウタン	
64	（四川省）	洪水	竹籠	追いかけっこ、臼
65	漢族（河南省）	洪水	白い亀	
66	漢族（河南省）	洪水	石亀	臼による神占
67	漢族（遼寧省）	洪水	石ライオン	臼、針による神占
68	漢族（遼寧省）	大火	石ライオン	臼、針による神占
69	漢族（遼寧省）	洪水	石ライオン	臼、針による神占
70	漢族（遼寧省）	洪水	石ライオン	臼、針による神占
71	漢族（遼寧省）	洪水	石ライオン	臼、針による神占
72	漢族（遼寧省）	洪水	石ライオン	臼、針による神占
73	漢族（遼寧省）	洪水	石ライオン	臼、針による神占
74	漢族（遼寧省）	洪水	石ライオン	
75	漢族（遼寧省）	洪水	石ライオン	臼、針による神占
76	漢族（遼寧省）	洪水	石ライオン	臼、針、卵転がしによる神占
77	漢族（遼寧省）	洪水	石ライオン	臼、針による神占
78	漢族（遼寧省）	洪水		
79	漢族（遼寧省）	洪水		臼、針による神占
80	漢族（遼寧省）	洪水	船	臼による神占
81	漢族（遼寧省）			針による神占
82	漢族（遼寧省）	洪水	石ライオン	臼、針による神占
83	漢族（吉林省）	洪水	石ライオン	臼、針による神占
84	漢族（吉林省）	洪水	石ライオン	臼による神占
85	漢族（吉林省）	洪水		
86	黎族（海南省）	洪水	ヒョウタン	雷公の助言
87	黎族（海南省）	洪水		雷公が姉の顔を黒く塗る
88	苗族（湖南省）	洪水	キュウリ	臼による神占
89	布依族（貴州省）	洪水	神の説得	

生まれてきたもの	始祖	出典	タイプ
肉塊。刻むと人		中国民間故事集成　雲南上冊	肉塊割散型
肉塊。刻んで撒くと人	沙族、漢族百家姓	中国民間故事集成　雲南上冊	肉塊割散型
肉塊撒くと人	百家姓	中国民間故事集成　雲南上冊	肉塊割散型
カボチャ。切ると人	漢人、阿細人、苗人	阿細民歌及其言語	瓜中発生型
植えた瓜から人		阿細的先基	瓜中発生型
肉塊。刻んで木にかけると男女		雲南各族民間故事選	肉塊割散型
頭と手足の無い肉塊。切り刻むと人		中国民間故事集成　雲南上冊	肉塊割散型
ヒョウタン。天神が穴をあけると人	彝族、タイ族、傈僳族、苗族、漢族、藏族、博族、回族など	梅葛	瓜中発生型
		解咒経	
	九つの氏族	人類的来源	
肉塊。人に変化		中国民間故事集成　雲南上冊	肉塊割散型
		民族文化　1980年12月号	
		牡帕蜜帕	
犬の皮袋。中から十児	百家姓	中国民間故事集成　雲南上冊	
子どもを鬼が裂き、４男４女	景頗族、崩龍族、傈僳族、阿瓦族	景頗族民間故事	
ヒョウタン。竹刀で穴をあけると人	卡人、布都人、碧約人、西摩落人など	中国民間故事集成　雲南上冊	瓜中発生型
肉塊。切り刻むと動植物とヒョウタン。穴をあけると中から人	哈尼族、彝族、瑤族、白族など	中国民間故事集成　雲南上冊	肉塊割散型
ヒョウタンの種。育てると中から	百家姓	中国民間故事集成　雲南上冊	瓜中発生型
肉塊。切断し木にかけると人	木の名前の名字	中国民間故事集成　四川省巻	肉塊割散型
肉塊。切断し木にかけると人		中国民間故事集成　四川省巻	肉塊割散型
泥で人を作る		中国民間故事集成　四川省巻	
肉塊。切り刻むと人	百家姓	民間文学　一九六四年第三期	肉塊割散型
黄土で人を作る		中国民間故事集成　河南淮陽巻	
泥で人を作る		中国民間故事集成　河南省巻	
泥で人を作る		中国東北地方の洪水神話	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
泥で人を作る		郭富光の表	
雷公が子どもを切り刻んで篩でふるうと４男４女	漢人、杞黎、侈黎、本地黎	民間文学一九五七年七月号	
	黎人	中国民族学報第一期	
肉塊。切って捨てると人		聞一多の表	肉塊割散型

	場所	出来事	避災法	婚姻、性交に先立って
90	苗族（貴州省）	洪水	瓜	瓜を食べる
91	苗族（貴州省）	洪水		
92	苗族（貴州省）	洪水	天に昇る	
93	苗族（貴州省）	洪水	木の太鼓	臼、針による神占
94	苗族（貴州省）	洪水	ヒョウタン	臼、木による神占
95	苗族（貴州省）	洪水	瓜	神の勧め
96	苗族（貴州省）	洪水	船	
97	苗族（貴州省）	洪水	カボチャ	おばあさんの勧め
98	苗族（貴州省）			
99	苗族（貴州省）			
100	苗族（広西チワン族自治区）	洪水	ヒョウタン	神の勧め
101	瑤族（広西チワン族自治区）	洪水	ヒョウタン	煙による神占
102	瑤族（広西チワン族自治区）	洪水	ヒョウタン	金亀の勧め
103	瑤族（広西チワン族自治区）	洪水		追いかけっこ
104	瑤族（広西チワン族自治区）	洪水		追いかけっこ、臼による神占
105	瑤族（広西チワン族自治区）	洪水	ヒョウタン	追いかけっこ
106	瑤族（広西チワン族自治区）	洪水		追いかけっこ
107	瑤族（広西チワン族自治区）	洪水	大瓶	煙、臼による神占
108	瑤族（広西チワン族自治区）	洪水	ヒョウタン	
109	壮族（広西チワン族自治区）	洪水	ヒョウタン	亀、カラス、竹、煙による神占
110	東南アジア			
111	ブイル族（インド）	洪水	籠	神が兄妹を回して他人にする
112	チンガポー族（ミャンマー）	洪水	大きなボート	
113	ナガ族（ミャンマー）	洪水	山頂の木に登る	
114	ラワ族（タイ）	洪水		鳥の勧め
115	カム族（タイ）	洪水	太鼓	カッコウの勧め
116	カム族（タイ）	洪水	太鼓	カッコウの勧め
117	カム族（タイ）	洪水	太鼓	カッコウの勧め
118	マン族（ベトナム）	洪水	ヒョウタン	火煙り、竹尾
119	マン族（ベトナム）	洪水	ヒョウタン	亀、竹の忠告
120	タイ族（ベトナム）	洪水	ヒョウタン	神の教え
121	（ベトナム）	洪水	カボチャ	
122	ドゥスン族（マレーシア）	洪水	筏	世界を左右に回ったため気付かない
123	ムルート族（マレーシア）	洪水		弟に仮装させる
124	ヒリガイノン族(フィリピン)	神の植えた葦から生まれる		マグロ、鳩が相談し、地震神に許可をもらう
125	ヒリガイノン族(フィリピン)	神の植えた葦から生まれる		マグロ、鳩が相談し、地震神に許可をもらう

生まれてきたもの	始祖	出典	タイプ
肉塊。切り刻むと人		中国民族学報第一期	肉塊割散型
瓜児。刀で切り刻むと骨、肝、首が人	苗人、水家、僮家	台湾土着社会始祖伝説	瓜中発生型
木から木が生まれ人に	９種の植物姓	苗族調査報告	
目が無く玉の様な子。切り刻むと人		聞一多の表	肉塊割散型
手足の無い子		聞一多の表	肉塊割散型
手足の無い二子。切り捨てると人		聞一多の表	肉塊割散型
瓜を食べて瓜子。切り刻むと人		聞一多の表	瓜中発生型
四肢の無い瓜のような子		聞一多の表	肉塊割散型
耳目の無い瓜のような子		聞一多の表	肉塊割散型
手足の無い子。切り刻むと人		聞一多の表	肉塊割散型
カボチャ。切り刻むと人		聞一多の表	瓜中発生型
肉団子。切り刻むと人		聞一多の表	肉塊割散型
血の固まり。分けると人	三十六姓	聞一多の表	肉塊割散型
肉塊		聞一多の表	肉塊割散型
肉胎。切り刻むと人		説文月間第一巻第十期十一期合	肉塊割散型
肉塊。切り刻むと人		中国民族学報第一期	肉塊割散型
肉の球。刻むと人		中国古代神話	肉塊割散型
肉球		白族民間故事伝説集	肉塊割散型
目鼻、手足の無い子		聞一多の表	肉塊割散型
石臼。砕くと人		聞一多の表	
子どもを雷王が360に切って人	三百六十姓	民間文学一九五九年八月号	
		未開人の世界観	
魔女に引き裂かれた子どもの破片が人	シャン族、シナ人、ビルマ人、ベンガル人	洪水伝説	
ヒョウタン。刀で割ると中から人	ナガ族の諸部族	世界神話事典	瓜中発生型
ヒョウタン。穴をあけると人。	ラワ族、タイ人、カレン族、中国人、ヨーロッパ人	神話と神話学	瓜中発生型
ヒョウタン。熱した長い杖で穴をあけると人	ラメット族、カム族、タイ人、西洋人、中国人	THE FLOOD MYTH	瓜中発生型
ヒョウタン。熱した杖で穴をあけると人	ラメット族、インド人、カム族、中国人、シャン族、モン族、西洋人	THE FLOOD MYTH	瓜中発生型
ヒョウタン。熱した杖で穴をあけると人		THE FLOOD MYTH	瓜中発生型
皮袋。中から十童男、九童女		媒人講大明書	
ヒョウタン。種から人	マン族、トー族	Ethnographie du Tonkin Septentrional	瓜中発生型
ヒョウタン。種から万物		ベトナム民話	瓜中発生型
カボチャ。割って種を撒くと人		聞一多の表	瓜中発生型
七人の娘と七人の息子		The Relilgion of the Tempasuk Dusuns of North-Borneo	
		中国古代神話	
息子１人、娘１人		Philippine Folk Literature	
息子１人、娘１人		Philippine Folk Literature	

表２　兄妹婚を伴わない瓜中発生神話

場所	植物の誕生	植物	割削法	誕生したもの	備考	出典
ワ族（雲南省）	黄牛が種子を落す	ヒョウタン	雀がついばむ	ワ族、景頗族、タイ族、漢族、ラフ族		葫蘆的伝説
タイ族（雲南省）	洪水を漂流	ヒョウタン		口だけの丸い子ども	神が手足等を付ける	タイ族古老神話漫歩
タイ族（雲南省）	水牛の卵が孵化	ヒョウタン		一対の人間		タイ族古老神話漫歩
ラフ族（雲南省）	男と仙女の婚姻	ヒョウタン		漢族、黒彝族、哈尼族、タイ族		彝族的図騰与宗教的起源
ラフ族（雲南省）		ヒョウタン		男女	流した子を神が分割し布で包むと諸民族	ラフ族社会歴史調査（二）
ラフ族（雲南省）	種が落ちてくる	ヒョウタン		苦聰人		討親嫁女歌
阿昌族（雲南省）	天父と地母の婚姻	ヒョウタン		九姓九族	臼、煙による神占	遮帕麻与遮米麻
崩龍族（雲南省）		ヒョウタン		形が全て同じもの	仙人が造形	李子賢
白族（雲南省）		ヒョウタン		男女		東瓜奶与西瓜姥
傈僳族（雲南省）	神が種をまく	瓜	神が刀で斬る	男女	神占の後に結婚	碧羅雪山之栗粟族
シャム族（タイ）	水牛の死体から発生	ヒョウタン	焼いた鉄で穴をあける	三族		タイ民族の話
ヤイ族（タイ）		ヒョウタン		四族		タイ民族の話
カチン族（ビルマ）	精霊が作成	ヒョウタン		カチン族	ヒョウタンに四肢を付ける	世界の神話
ワ族（ビルマ）	男女が植える	ヒョウタン	神剣で切る	全ての動物と人類		The mythology of all racesＸⅡ
タイ族（ラオス）	水牛の死体から発生	カボチャ			洪水後	Recherches sur la litté rature laotienne.』BEFEO ＸＶＩＩＩ No.5
ラーオ族（ラオス）	水牛の死体から発生	ヒョウタン	焼いた鉄とノミで穴をあける	カー族、タイ族	洪水後	ラオスの民話
ラーオ族（ラオス）	巨木になる	ヒョウタン	神がノミで突く	万物		ラオスの民話
ラーオ族（ラオス）		カボチャ		インドシナ半島の人類		The mythology of all racesＸⅡ
シャン族（ミャンマー）		ヒョウタン		ワ族	洪水後	The mythology of all racesＸⅡ
アホム族（インド）	神の命令でまく	ヒョウタン	神が雷で割る	万物	洪水後	旧約聖書のフォークロア

国別の兄妹婚における異常児の数